

カンファレンスを「時間のムダ」と言わせない！

ファシリテーションのスキル



「倫理カンファレンス」にみられるように、諸問題解決のための話し合いが重視されてきている今日。医療現場に限らず、活発な話し合いを促す「ファシリテーター」の役割が大きくなっています。その“スキル”と、前提となる考え方（マインド）について解説します。



【執筆】大島和美 おおしま・かずみ
京都産業大学 教育支援研究開発センター
F工房 コーディネーター

学生時代は演劇を専攻し、演劇的手法を用いた主体的・対話的・協働的な場づくりを実践的に学ぶ。その後、京都市ユースサービス協会において、若者とともに場をつくり、若者の成長と社会への参画を支援する専門員として勤務。現在は京都産業大学においてファシリテーション専門員として、支援型教育の促進業務を担う。



【執筆】鬼塚哲郎 おにつか・てつろう
京都産業大学 名誉教授

2022年3月まで京都産業大学に勤務。専門はスペイン語学・文学。1990年代からエイズ予防関連、震災関連のNGO活動にも従事。その経験をふまえ、大学でキャリア教育とファシリテーションの研究と実践に取り組む。著書に『大学授業で対話はどこまで可能か』（ナカニシヤ出版、共著）。



【執筆協力（医療・看護領域）】
山田カオル やまだ・かおる
山形県立保健医療大学
保健医療学部 看護学科 准教授

山形県立保健医療短期大学を卒業後、病院勤務を経て現職。慢性看護・医療社会学を専門に、表現を通じた場づくりを実践。博士（情報科学）、認定WSD（ワークショップデザイナー）。

CONTENTS

- 48 **PART 1** ファシリテーションって何？なぜ、大切なスキルなの？
- 51 **PART 2** カンファレンス“あるある”「こんなとき、どうする？」
- 58 **PART 3** 話し始める前にできること・しておきたいこと